

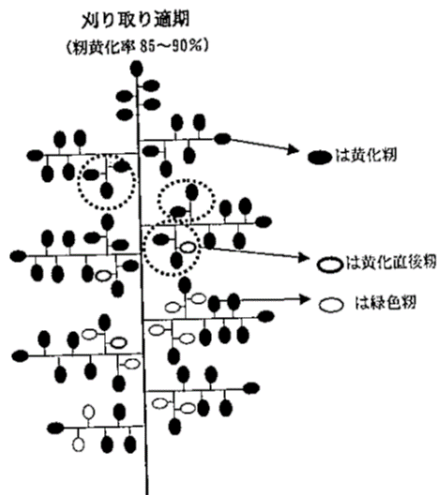
出穂期の再確認・収穫適期の把握を！
圃場ごとの適期収穫を計画しましょう！



1.適期収穫 ～高品質・良食味米生産に「適期収穫」は不可欠です～

- 早刈りは青米・未熟粒の混入増加や収量低下の原因となり、刈遅れは着色米・胴割米が増加して品質低下を招きます。
- 収穫時期は、登熟期間の気象条件、特に温度に左右され、高温下では促進されます。籾の黄化状況や「積算気温」を参考に刈取り時期を判断しましょう。
- * 収穫適期は、出穂後の日数や日平均気温の積算値からおおむね推定できます。
(参考：裏面刈取適期早見表)
- * 登熟後半が高温条件となって籾水分の低下が早く、立毛胴割れの発生が懸念される場合は、収穫開始を 50℃程度（2 日程度）早めましょう。

☆籾の黄化状況による収穫適期



図中の点線内（上位3～4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾）が黄化した時が刈り取り適期

☆積算気温による収穫適期

品 種	収穫適期目安 (出穂後積算温度)
早生（こしいぶき、ゆきん子舞、わたぼうし等）	975℃
中生（コシヒカリ、こがねもち）	1000℃

（注）籾黄化の診断は1次枝梗が9本程度の平均的な穂について行う。
調査本数は10穂程度必要である。
8本以上が該当すれば刈り取り適期

「台風の接近に伴う管理対策」

- （1）降雨の予報内容に係わらず、フェーン等の高温障害の発生を防止するため、用水の確保に努め、すみやかに湛水する。
- （2）台風通過後湛水したほ場は速やかに落水し、飽水管理に移行することで根の健全化を図る。

「異物混入の防止」

- （1）クサネムの除去を徹底し、混入をなくしましょう。
- （2）畦畔際のイボクサ等の草刈りを実施し、コンバインへの巻き込みを防止しましょう。

